



## 茨城と世界の懸け橋に ～茨城県CIRの取り組み～

### 茨城県営業戦略部国際渉外チーム

#### 聞いて・見て・触れて

茨城県の在住外国人は約7万1,000人（2019年末現在）で、近年増加傾向にあります。それに伴い、県内で外国人と接する場面が増えている中、当チームでは世界各地との国際交流の促進に取り組んでいます。当チーム所属の3人（2020年6月時点）の国際交流員（CIR）は、本県と世界の国々をつなぐ懸け橋として日々活躍しています。

茨城県国際理解教育推進協議会主催（事務局：茨城県国際交流協会）のもと行われているワールドキャラバンも、CIRの活躍の場の1つです。ワールドキャラバンとは、県内学校や生涯学習関連施設等が国際理解の促進を目的として行う事業へ講師を派遣する制度です。当チームのCIRもこのワールドキャラバンに、出身国の文化紹介を通じ国際理解を深めてもらえるよう、積極的に参加しています。



実物のカナダ紙幣を紹介するCIR（グロリアさん（カナダ））

例えば、アメリカ出身のセドリックさん（CIR）は、出身国の文化を情報として提供するだけでなく、参加者が子どもであれば母国でポピュラーなゲームを紹介し、大人であれば母国のお茶やお菓子を用意するなど、参加者に合わせて楽しんでもらえるような工夫をしています。

いずれのCIRもそれぞれの個性と国の特徴を生かし、スライドを用いる、〇×クイズをする、現物に触れるようにする等、五感で外国文化を学べるように工夫をしてくれています。



ワールドキャラバンの様子（セドリックさん（アメリカ））

#### 県の魅力を発信

2018年12月5日に外務省の主導で開催した「平成30年度第2回地域の魅力発信セミナー」においては、本県の伝統的工芸品である結城紬の着物を着たグロリアさん（CIR）と本県担当者が農産物や工芸品、観光地等の紹介を行いました。



結城紬の着物を着て茨城県の魅力をPR（グロリアさん）



交流会では茨城県産品を使ったアンコウ鍋でおもてなし  
(右端：セドリックさん)

第1部のプレゼンテーションでは、約70人の駐日外交団を含む約170人の参加者の皆さまに、茨城県は自然溢れる豊かな県であり、魅力的な観光地も多数あることをアピールしました。また、第2部の交流会では、茨城名物のアンコウ鍋やかんしょ（サツマイモ）の天ぷら、地酒等をふるまい、実際に味わっていただきました。グロリアさん（CIR）は、第1部、第2部ともに持ち前の明るさとコミュニケーション能力を発揮し、場を和ませながら本県の魅力をたっぷりと紹介してくれました。

豊富にとれる農産物の美味しさや春を彩る偕楽園（日本三名園の1つ）の梅、個性豊かな笠間焼などの多彩な本県の魅力も、長年県内に住んでいると当たり前と感じてしまいがちになります。CIRは、私たちが忘れてしまっていた茨城県の魅力を再発見させてくれたり、新たな魅力に気付かせてくれたりする、とても大切な存在です。

## フランスとの交流

本県は、科学万博'85を契機として1986年にフランスのエソンヌ県と友好協定を締結しました。その後、2018年に新たな協定を締結し、昨年には「芸術・文化的交流の促進」等に係る交流推進計画を策定しています。

昨年度には、エソンヌ県へ本県内の高校生を派遣し、芸術・文化活動を通じて現地の高校生との交流を行いました。現地では、芸術ワークショップを行ったほか、本県の高校生による書道パフォーマ



仏エソンヌ県のシャマランド城内を案内するローラさん  
(写真中央)

ンスを披露するなど、フランスと日本、それぞれの文化の魅力を感じることができるプログラムとなりました。海を飛び越えて実施するという大きなプログラムでしたが、当チーム担当者とともに、企画の立案からエソンヌ県担当者とのやりとり、現地でのサポートまで、フランス出身のローラさん（CIR）にも対応をお願いし、その実力を遺憾なく発揮してもらいました。

## 今後への期待

今後もCIRがそれぞれの個性を発揮することで、本県のさらなる国際交流の推進を図っていかれたらと考えています。また、本県では、今年度の組織再編により、国際交流担当部署が県民生活環境部から県産品輸出等のビジネスを扱う営業戦略部へと組み込まれ、当チームが設立されました。そのため、県産品の魅力発信や企業と連携しての経済交流の推進等においてもCIRの活躍が大いに期待されています。



本県から派遣した高校生による書道パフォーマンスの後、参加者一同で記念撮影  
(仏エソンヌ県にて)